

突撃！リスクマネージャー！！

医療の安全に取り組む全国のリスクマネージャー様にインタビュー！

No28.社会福祉法人晋栄福祉会『中山ちどり』 施設サービス介護部長 内池正記 様

■病院概要

平成 23 年 5 月 1 日開設。宝塚の街並みを望む中山台に位置し、付近には安産の寺として有名な中山寺がある。様々な施設を含む総合福祉施設であり、特別養護老人ホーム、ケアハウス、ショートステイ、ディサービス、グループホーム、小規模多機能ホーム、認知症対応型ディサービス、夜間対応型ヘルパーサービスが複合しており、総合的な介護サービスの提供を行っている。



■理念

我が国は、世界で最も早いスピードで少子高齢社会を迎えている今、介護・看護・保育を必要とするご利用者の御要望に適切に応える為、ニーズの的確、かつ迅速な把握、タイムリーなサービスの提供を行うことにより、安心して、より豊かな生活を送って頂けるよう、きめ細かい相談・介護・保育について満足していただけるサービスの提供を目指しています。当法人は、ご入居者及びご利用者、そしてご家族も含めて、常に心と血の通ったサービスと交流をモットーにして、職員一同介護・保育サービスを提供して参ります。



中山ちどりで施設サービスや介護の責任者をされている
内池様にお話を伺ってきました。

——新設のご施設において離床センサーを導入された経緯と目的をお聞かせ下さい。

開設前において、ご利用者様の状況を把握する事が困難である事はあらかじめ予測していましたので、状況を把握し、転倒リスクを回避するために離床センサーの導入を検討していました。
販売店からの提案で、テクノスジャパンの離床センサーを知り、同等品との比較などもした検討の結果、コードレスで 安全性が高く使いやすい点が優れていると判断し、導入に至りました。

——離床センサーの導入計画はどのように決定されましたか？

開設当初から、離床センサーを準備する事により、介護スタッフの不安を解消したいと考えており、法人理事長に説明をしたところ、理事長も現場経験が豊富である事から理解が得られ、導入する事ができました。離床センサーの利便性やご利用様の安全を担保できるという必要性については、現場の経験者でないと理解は得られにくいかもしれません。当法人は、管理職全員が現場の経験者ですので、その点ではスムーズに導入できたと思います。

——離床センサーの導入台数は何を根拠として決定されましたか？

施設ごとの特色がある中で、総合福祉施設として全体の必要台数を事前にまとめるには限界がありましたが、なるべく多くの台数を導入したいと希望していました。最終的には、予算と入居予定者の ADL をもとに台数を決定し、床敷きタイプの『コールマット・コードレス』を 60 台導入しました。

——総合福祉施設の中で、主にどこで離床センサーを使用されていますか？

現在は、特別養護老人ホーム・ケアハウス・グループホーム・小規模多機能といった宿泊を伴うサービス全てで離床センサーを使用しています。入居後間もない方は、環境の変化になじめず落ち着かないのが当たり前だと思いますので、そういった方の安全を確保するために、当面は、入居後の一定期間の使用を定めています。

——離床センサーはどのように管理されていますか？

基本的には、中央一括管理をしており、各ユニットからの要請に応じて貸し出しています。貸出し後は、返却までユニットで管理する形態をとっています。

——離床センサーをどのような対象者に使用するかの適用基準はありますか？

周辺症状が安定しない、スタッフの言う事を聞いてもらえない、転倒リスクが高いなどのご利用者様側の転倒に関連する要因の項目を設定し、2 つ以上が当てはまる時に使用しています。その他にも、マンパワーでの対策が難しい場合に使用するなど、適用のケースは様々です。

——離床センサー導入のメリットはなんですか？

転倒・転落事故のリスクを軽減できる事は当然ですが、それ以上に機器がある事によりスタッフがゆとりをもって業務に従事できる事ではないでしょうか。離床センサーを、ご利用者様をケアするツールの1つと捉え、多くのツールを用意する事により幅広いサービスの提供ができるというのが、施設長の考えであり、私もその考えに全面的に賛同しています。

——メーカーに望まれること(離床センサー運用上の課題や情報提供など)はなんですか？

管理運用上の課題と言えないかもしれませんが、いくつかあります。まず、センサーの見た目がどうしてもよくない(笑)。というのは、ユニットケアの個室では床がフローリングなのでセンサーを設置した場合、色合いがマッチしなくて違和感があります。その辺りは検討の余地があるのではないのでしょうか。また、コールマットの滑りや厚みも使用するスタッフにとっては気になる所ですので、より安全性が高い物にさらなる改良を期待しています。

あれこれ言いましたが、現状ではおおむね満足して使用しています。これからも、素晴らしい商品を開発していただき、私たちとご利用者様の両方に安心・安全を提供して下さい。そして、その商品が日本だけではなく世界中で使用され、転倒事故を起こされる方が1人でも減る事を切に願っています。

——最後に内池様の介護への思いをお聞かせ下さい。

スタッフの精神的ゆとりや、事故の回数・程度を考察すると離床センサーに助けられていると感じる事は多々あります。しかし、スタッフが機器に頼りあまり、ご利用者様のケアを行う上で、工夫や努力がおろそかにならないように気を付ける必要があります。今後もスタッフの教育指導を継続し、マンパワーの大切さやケアの考え方について、スタッフが真剣に考え、深く受け止めるような施設づくりを目指したいです。ご利用者様には、ご自宅のようにくつろいで過ごしていただけるような居心地の良いサービスを提供していきたいですね。